令和7年 第2回

大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会会議録

令和7年8月4日

大分県後期高齢者医療広域連合議会

令和7年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会会議録目次

開 会	2
開 議	2
日程第1 大分県後期高齢者医療広域連合議会議長の選挙について	3
日程第2 議席の指定及び議席の一部変更について	4
日程第3 会期の決定について	5
日程第4 議会運営委員会委員の選任について	5
日程第5 議第9号の上程 提案理由説明、質疑、討論、採決	5
日程第6 議第10号から議第12号の一括上程 提案理由説明、質疑、討論、採決	6
○16番（日隈 知重君）	7
○22番（岩崎 貴博君）	7
日程第7 一般質問	9
○16番（日隈 知重君）	9
○22番（岩崎 貴博君）	12
日程第8 会議録署名議員の指名について	16
閉 会	17

令和7年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会（第1号）

議事日程（第1号）

令和7年8月4日 午後1時31分開議

- 第1 大分県後期高齢者医療広域連合議会議長の選挙について
 - 第2 議席の指定及び議席の一部変更について
 - 第3 会期の決定について
 - 第4 議会運営委員会委員の選任について
 - 第5 議第9号 大分県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任に関し議会の同意を求めるところについて
以上1議案の上程 提案理由説明、質疑、討論、採決
 - 第6 議第10号 令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第1号）
議第11号 令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合特別会計補正予算（第1号）
議第12号 令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について
以上3議案の一括上程 提案理由説明、質疑、討論、採決
 - 第7 一般質問
 - 第8 会議録署名議員の指名について
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 大分県後期高齢者医療広域連合議会議長の選挙について
 - 日程第2 議席の指定及び議席の一部変更について
 - 日程第3 会期の決定について
 - 日程第4 議会運営委員会委員の選任について
 - 日程第5 議第9号 大分県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任に関し議会の同意を求めるところについて
以上1議案の上程 提案理由説明、質疑、討論、採決
 - 日程第6 議第10号 令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第1号）
議第11号 令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合特別会計補正予算（第1号）
議第12号 令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について
以上3議案の一括上程 提案理由説明、質疑、討論、採決
 - 日程第7 一般質問
 - 日程第8 会議録署名議員の指名について
-

出席した議員（21人）

2番	増田裕子	3番	金元正生
4番	木野村敏雄	5番	白石徳明
6番	渕野けさ子	7番	高野辰代
8番	水脇純一	9番	泥谷修

10番 河野正春
12番 井戸川幸弘
16番 日隈知重
19番 森大輔
21番 堤英貴
23番 岩川義枝
26番 二宮博

11番 佐藤市蔵
13番 芝田英範
18番 相良亜寿香
20番 石田強
22番 岩崎貴博
24番 宮邊和弘

欠席した議員（5人）

1番 河島公司
15番 高司政文
25番 今山裕之

14番 大崎栄治
17番 三重野玉江

出席した事務局職員

事務局書記長代理 金城美幸
総務課主査 安田文恵
総務課主任 日隈久徳

事務局書記 坂西正晴
総務課主任 中村雄

説明のため出席した職員

広域連合長 足立信也
事務局長 岡村吉宏
次長兼総務課長 姫野邦夫
賦課資格管理係長 平野豊
保健係長 飯野敬子

副広域連合長 長野恭紘
会計管理者 高橋芳江
事業課長 岩崎正信
給付係長 三宮真依子
会計室長 安部邦洋

議事の経過

開 会

○副議長（金元 正生君） 皆さん、こんにちは。副議長の金元でございます。

現在、議長が空席となっておりますので、地方自治法第106条第1項の規定に基づき、議長の職を務めさせていただきます。議員の皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ただいまから、令和7年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会を開会いたします。なお、日野副連合長から、事情により、本日、欠席する旨の届け出がありましたので、ご了承願います。

午後1時30分開会

開 議

○副議長（金元 正生君） ただいまの出席議員は、定足数に達しておりますので、ただちに、会議を開きます。

議事の進行上、仮議席を指定いたします。仮議席は、ただいま、ご着席の議席を指定いたします。

午後1時31分開議

諸般の報告

○副議長（金元 正生君） 日程に先立ちまして、ご報告いたします。

お手元に配付しております諸般の報告のとおり、議会閉会中に9名の議員から議員辞職願が提出され、地方自治法第126条の規定に基づき、辞職を許可いたしました。

また、関係市町村の議会の議員としての任期満了に伴い、10名の議員が交代されましたことをご報告いたします。

次に、議会運営委員会委員の欠員に伴う補欠委員の選任については、委員会条例第5条の規定により、閉会中における委員の選任を行いましたので、お手元の補欠委員選任名簿のとおり、ご報告いたします。

広域連合長挨拶

○副議長（金元 正生君） ここで、広域連合長より発言の申し出がありますので、発言を許可いたします。

足立広域連合長。

○広域連合長（足立 信也君） 皆さん、こんにちは。お暑いです。令和7年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会に御出席ありがとうございます。この時期なんですけれども、今、執行部とも相談しているところですが、夏祭り等々、皆さんのところでも大変に忙しいと思いますし、お盆関係の行事も慰霊祭等々あります。この時期に定例会を開催するのが、果たしていいのかわか協議したいと思っております。多忙な時期を外した方がいいのではないかと。そのように、私自身は感じているところです。

さて、最近の本広域連合の情勢についてでございますが、去る5月20日に長崎市で令和7年度春季九州後期高齢者医療広域連合地域ブロック協議会広域連合長会議が開催され、出席してまいりました。会議におきましては、国への要望事項として、マイナンバー制度をはじめ、保健事業関連、医療保険制度改革関連などの5項目について、全国協議会へ提言することが決定されました。

その後、6月4日に東京で開催された、令和7年度全国後期高齢者医療広域連合長会議におきまして、マイナンバー制度や、高額療養費制度など7項目について、全国広域連合協議会の横尾会長から、仁木厚生労働副大臣に要望書を手交したところでございます。

本広域連合では、後期高齢者が安心して医療を受けられるよう、適切で安定した事業運営に努めるとともに、制度上の懸案事項については、全国協議会の場などを通じて、引き続き、国に働きかけてまいりたいと考えております。皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

今定例会では、大分県後期高齢者医療広域連合補正予算や、令和6年度歳入歳出決算の認定等を付議事項として提案しております。

何卒、慎重に御審議の上、御賛同賜りますようお願い申し上げます。どうかよろしく申し上げます。

日程第1 大分県後期高齢者医療広域連合議会長の選挙について

○副議長（金元 正生君） 本日の議事は、お手元に配付の議事日程により行います。

日程第1、大分県後期高齢者医療広域連合議会長の選挙についてを行います。

選挙の方法については、地方自治法第118条の規定により、投票による方法と指名推選の方法がございます。つきましては、指名推選の方法により議長を選出したいと存じますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（金元 正生君） ご異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は、指名推選と決定いたしました。

お諮りいたします。

指名の方法につきましては、副議長において指名することに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（金元 正生君） ご異議なしと認めます。

よって、副議長において指名することに決定いたしました。それでは指名いたします。議長に大分市の二宮博議員を指名いたします。

ただいま、指名いたしました二宮議員を議長の当選人と定めることに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（金元 正生君） ご異議なしと認めます。

よって、二宮議員が議長に当選いたしました。

ただいま、議長に当選されました二宮議員が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定により告知いたします。

二宮博議員、議長就任のごあいさつをお願いいたします。

○議長（二宮 博君） 皆さん、こんにちは。ただいま、議員各位のご推挙によりまして、議長の職に就くことになりました、大分市議会選出の二宮博でございます。

就任に当たりまして、一言、ごあいさつを申し上げます。

後期高齢者医療制度につきましては、制度開始から17年を経過し、現在では、制度が定着しているとの評価を得るとともに、安定した運営をされていると認識いたしております。

しかしながら、令和4年度以降、団塊の世代が後期高齢者となり始め、医療費の急増が見込まれている中、今後とも被保険者が安心して適切な医療を受けられるよう、将来にわたり、持続可能な制度にしていくことが肝要であると考えております。

そのためにも、この広域連合議会の役割は大変重要なものと承知しているところでございます。

今後とも、公正かつ円滑な議会運営に努めて参りますので、議員の皆様方におかれましては、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。議長就任のごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○副議長（金元 正生君） 以上で、私の職務を終わります。ご協力ありがとうございました。

それでは、二宮議長と交代をいたします。

また、資料を配付しますので、ここで暫時休憩いたします。

〔議長交代及び資料配付〕

午後1時40分休憩

午後1時43分再開

日程第2 議席の指定及び議席の一部変更について

○議長（二宮 博君） 再開いたします。

日程第2、議席の指定及び議席の一部変更についてを議題といたします。

各議員の議席は、議長において、お手元の議席表のとおり指定いたします。また、これに伴い、

会議規則第4条第3項の規定により、議席の一部変更をいたします。

相良亜寿香議員を18番に、変更いたしたいと思いを。

お諮りいたします。

ただいま、申し上げましたとおり、議席の指定及び一部を変更することについて、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。よって議席は、議席表のとおり、指定及び一部を変更することに決定いたしました。

日程第3 会期の決定について

○議長（二宮 博君） 次に、日程第3、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期は、本日1日間とすることに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。

よって会期は、本日1日間と決定いたしました。

日程第4 議会運営委員会委員の選任について

○議長（二宮 博君） 次にまいります。

日程第4、議会運営委員会委員の選任についてを議題といたします。

議会運営委員会委員の選任については、委員会条例第5条の規定により、議長において、お手元に配付の選任名簿のとおり6名を指名いたしたいと思いを。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。

よって、選任名簿のとおり6名を次期議会運営委員会委員に選任することに決定いたしました。

日程第5 議第9号 大分県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任に関し議会の同意を 求めることについて

○議長（二宮 博君） 次にまいります。

日程第5、議第9号を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

足立広域連合長。

○広域連合長（足立 信也君） 人事案件について、ご説明申し上げます。

議第9号大分県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任に関し議会の同意を求めることについてであります。

これは、去る3月9日をもって任期満了となりました、仲家孝治氏の後任として、新たに今山裕之氏を選任いたしたく、地方自治法第292条の規定において準用する、同法第196条第1項、及び大

分県後期高齢者医療広域連合規約第16条第2項の規定に基づき、議会の同意をいただこうとするものであります。

慎重にご審議の上、ご賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（二宮 博君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

本件は、地方自治法第117条の規定により除斥が必要となりますが、今山裕之議員は、本日、欠席しておりますので、その措置は不要です。

本案については、質疑及び討論の通告はございませんので、これより採決をいたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり同意することに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり同意することに決定いたしました。

日程第6 議第10号から議題第12号の一括上程

○議長（二宮 博君） 次に、日程第6、議第10号から議第12号までの3議案を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

足立広域連合長。

○広域連合長（足立 信也君） 予算及び決算等に係る3議案について、ご説明申し上げます。

まず、議第10号令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算第1号についてであります。

補正額は、1億9,001万6千円の増額で、補正後の予算総額は13億4,001万6千円となったところであります。

補正の内容について申し上げますと、歳入では、繰越金を1億9,001万6千円、歳出では、総務費を1億9,001万6千円、それぞれ増額しております。

次に、議第11号令和7年度大分県後期高齢者医療広域連合特別会計補正予算第1号についてであります。

補正額は、61億1,090万円の増額で、補正後の予算総額は2,362億1,290万円となったところであります。

補正の内容について申し上げますと、歳入では、繰越金を61億1,090万円増額し、歳出では、諸支出金を65億4,609万5千円増額し、予備費を4億3,519万5千円減額しております。

次に、議第12号令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算につきましては、地方自治法第292条の規定により準用する、同法第233条第3項の規定に基づき、認定をいただこうとするものであります。

一般会計につきましては、歳入総額12億5,194万4,697円、歳出総額10億6,192万9,666円で、歳入歳出差引残額は、1億9,001万5,031円となったところであります。

特別会計につきましては、歳入総額2,186億5,732万7,794円、歳出総額2,120億4,642万7,503円で、歳入歳出差引残額は、66億1,090万291円となったところであります。

慎重なご審議の上、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（二宮 博君） 以上で議案に対する説明が終わりました。

本案について、質疑の通告はございませんので、これより、討論を行います。

討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

16番、日隈議員。

○16番(日隈 知重君) 議第12号令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について反対討論を行います。令和6年度から、出産育児一時金の一部を支援する仕組みの導入や、現役世代の負担増を抑制するための、高齢者負担割合の見直しが行われたことから、令和6年度、7年度の保険料率が引き上げられました。保険料の値上げを抑えるために使った県財政安定化基金は約13億円、残りの14億円は医療費が伸びた場合に備え、使いませんでした。

私は、昨年2月の定例会に提案された、一人当たり保険料の14,657円の引き上げに、手元に入る年金を引き下げ受診抑制を進め、保険料値上げを抑えるために使う県財政安定化基金は13億円だけで、残りの14億円は医療費が伸びた場合に備え、県は使わない方針。高齢者の暮らしが大変な時にこそ、県財政安定化基金を全額使って、保険料の値上げをもっと抑えるべきだと反対しました。

令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算は単年度収支が前年度に比べ、26億118万5,295円の増加となっています。これは、保険給付費が前年度に比べ65億3,441万5,163円増加したものの、保険料率の引き上げなどによる歳入の増加額が上回ったことによります。

また、一人当たりの保険給付費は99万5,892円で、昨年度の99万3,887円と比べてほぼ横ばいです。県財政安定化基金をもっと活用すれば、保険料の値上げをもっと抑えることはできたのは明らかではないでしょうか。以上の理由から、議第12号令和6年度大分県後期高齢者広域連合歳入歳出決算の認定について反対をいたします。

○議長(二宮 博君) 次に、まいります。

22番、岩崎議員。

○22番(岩崎 貴博君) 日本共産党大分市選出の岩崎貴博です。

議第12号令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合の決算認定について、反対の立場から討論いたします。

まず、冒頭、数字として明らかになった事実に簡単に触れておきたいと思います。令和5年度の後期高齢者一人当たり年平均保険料は、6万6,939円でした。令和6年度は、それが7万6,415円へと大きく引き上げられています。これは一人当たり平均で、年間9,476円もの負担増となる計算です。

被保者数は、およそ20万人を超えており、総額では約19億8千5百万円の保険料増収となります。

しかしながら、大幅な保険料の引き上げについて、高齢者の生活実態に即した分析や視点が、決算審査を通じて十分示されたとは言えません。単なる数字上の報告に留まらず、どのような影響があったのか、その実態や課題、そういったものを共有しようとする姿勢が運営者として求められるのではないのでしょうか。

確かに、制度上広域連合は国の枠組みに沿って運営されているとはいえ、これだけの負担増を伴う制度変更が高齢者一人一人の暮らしにどれほどの重みを持つのか。その点が重視されていないように感じます。

その点を深く踏まえまして、三点ご指摘し反対したいと思います。まず、一点目は生活実態への分析対応への欠如であります。

頂いた資料によりますと、滞納繰越額は約6.6億円にも上り、そのうち回収されたのは約3.2億円。つまり、半分にとどまっております。これは単なる徴収効率の問題ではなく、払えない人はどうや

っても払えない、払いたくても払えない実態のあらわれではないでしょうか。私たち議員のもとには、急に保険料が上がった理由が分からない。医療費が払えず、病院に行くのをやめた。減免制度のことを知らなかったとの声が多く寄せられております。生活に支障をきたすような制度運用を行っているのであれば、その運営責任は厳しく問われなければなりません。

決算には、こうした実態を踏まえた分析はほとんどなく、政策的な改善提案や生活への支援策が非常に弱いと感じます。これでは決算は単なる収支報告に留まり、制度は持続するかもしれませんが、生活を守る医療制度としての本来の目的が形骸化してしまいます。

二点目、議会、構成市町村との合意形成の不足です。制度の限界や見直しの必要性について、構成市町村や議会との情報共有、合意形成が不十分だという問題です。制度上、広域連合議会において議論されるとはいえ、連合議会に所属していない市町村議員には重要な議案に関する情報が届きにくい、若しくは、提供が遅いという現状があります。一方で、住民の不安や疑問は市町村議員のもとに集中しており、制度の対応力が問われています。

また、市町村の窓口職員からは複雑な制度で住民への説明が難しい、制度改定が煩雑で情報提供が遅れるといった声も上がっています。こうした現場の課題が制度運営に反映されていない現状は合意形成の手法そのものを問い直す必要があると考えます。

三点目、人権としての医療と負担原則の歪みです。そもそも論になりますが、後期高齢者医療制度は高齢者の命と健康を守るための制度です。しかし、今や負担能力に関係なく保険料が課せられ、受診を控える人も現れています。高齢者医療は人権であり、お金がある人だけが使えるサービスであってはなりません。保険料の設定や制度の運用は単なる財政論ではなく、住民の暮らしを守る観点からも根本的に見直されるべきです。

そして、見逃してならないのが2022年10月から実施された2割負担の問題です。年収200万円以上という高所得者とは到底言えない基準で、これまで1割負担だった多くの高齢者が自己負担2倍という重い負担を背負わされました。例えば、私が支援に携わった70代の男性は年金収入が年間205万。これまで月約3,000円だった医療費の自己負担が2割負担により6,000円に跳ね上がり、リハビリを減らそうかと語っていました。これは明らかな受診抑制であり、症状の悪化や結果的に医療費の増大に繋がりがねません。高齢者の命を守るための制度が、その命を危機にさらすような結果になっては本末転倒です。

広域連合として、制度は国のものだからと傍観するのではなく生活の実態を踏まえ、2割負担の撤回を国に強く求めるべきです。

以上の理由から、私は今回の決算について、一点目、住民の生活実態に出した分析や対応が不十分。二点目、構成市町村や議会との合意形成が形骸化している。三点目、制度が本来果たすべき人権保障としての役割が薄れていることを理由に認定すべきではないと考えます。

地域的心声を丁寧にする上げ、制度の構造そのものを問い直すことこそ、広域連合に求められている責任ではないでしょうか。

以上、反対の立場から討論させていただきます。

○議長（二宮 博君） 以上で、討論は終了いたしました。

これをもって、討論を終結し、採決いたします。

最初に、反対討論のありました 議第12号令和6年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について、起立により採決をいたします。

本案について、原案のとおり決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（二宮 博君） 起立多数であります。着席してください。よって、議第12号は原案のとおり決定いたしました。

次に、ただ今決定を見た案件を除く、議第10号、議第11号について、採決をいたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。

よって、議第10号、議第11号については、原案のとおり決定いたしました。

日程第7 一般質問

○議長（二宮 博君） 次にまいります。

日程第7、これより一般質問に入ります。質問は、発言通告がありますので、お手元に配付の質問順位表により、これを許可いたします。

なお、質問は自席から行うことといたします。

高司議員より通告されておりました質問は、本日、ご本人の欠席により取り下げとなっております。

16番、日隈議員。

○16番（日隈 知重君） 一般質問を行います。まず、最初に、マイナ保険証の取得状況とマイナ保険証の利用率、これは後期高齢者広域連合大分県ですね、会員の方々の状況をお伺いいたします。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 日隈議員のマイナ保険証の質問にお答えいたします。

マイナンバーカードを健康保険証として利用する、いわゆる、マイナ保険証につきましては、医療DXを推進する中で、質の高い医療の実現などを図ることを目的に、国において導入が進められているものでございます。

大分県の後期高齢者におけるマイナ保険証は、令和7年5月末時点で、登録率は71.57%、利用率につきましては、28.80%となっております。

○議長（二宮 博君） 日隈議員。

○16番（日隈 知重君） 次に、マイナ保険証の利用率について過去3年間の推移をお伺いいたします。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） マイナ保険証の利用率については、マイナ保険証の運用が始まった令和5年10月末時点で2.14%でしたが、令和6年5月末時点で6.27%、令和7年5月末時点で28.80%となっております。

○議長（二宮 博君） 日隈議員。

○16番（日隈 知重君） マイナ保険証の利用率について、今、答弁がありましたけれども、マイナ保険証の利用率が2割を超えたのはいつかお伺いします。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 後期高齢者のマイナ保険証の利用率につきましては、月によって増減はございますが、2割を超えたのは令和6年11月でございます。

○議長（二宮 博君） 日隈議員。

○16番(日隈 知重君) 政府が令和6年12月から従来の健康保険証の新規発行を停止したことが、今、答弁で分かるように令和6年11月ということですから、マイナ保険証の利用率が2割を超えた主な理由と考えて良いと思うんですけど、それについて見解を伺います。

○議長(二宮 博君) 岩崎事業課長。

○事業課長(岩崎 正信君) 令和6年12月から健康保険証の新規発行を終了したことが、マイナ保険証の利用促進につながる要因の一つであったと考えております。

また、国、本広域連合及び医療機関等において周知、広報に努めてきたことも、利用率の向上につながったものと認識しております。

○議長(二宮 博君) 日隈議員。

○16番(日隈 知重君) マイナ保険証の利用促進を行うということですが、その方法について伺います。

○議長(二宮 博君) 岩崎事業課長。

○事業課長(岩崎 正信君) マイナ保険証の利用促進については、全被保険者への後期高齢者医療のしおりの配付、医療機関・市町村窓口での利用促進ポスターの掲示、本広域連合のホームページや市町村発行の広報誌への掲載等により、周知に務めているところでございます。

また、今後は、マイナ保険証を使うことのメリットや安全性についても、ラジオのCM等を活用して、広報していきたいと考えております。

○議長(二宮 博君) 16番、日隈議員。

○16番(日隈 知重君) マイナ保険証を使うことでのメリットを広報していくということですが、9割の医療機関でマイナ保険証のトラブルが発生していると発表した全国保険医団体連合会の調査をどう受け止めているかお聞きをいたします。

○議長(二宮 博君) 岩崎事業課長。

○事業課長(岩崎 正信君) 全国保険医団体連合会の調査についてでございますが、報道等その内容は承知しております。

マイナ保険証につきましては、医療機関におけるトラブルや不具合等への対応として、国において、オンライン資格確認システムの安定化や、カードリーダー等の機器の改修・更新、さらには導入支援や相談窓口の設置など、医療機関への支援策が講じられてきているところでございます。

制度の運営主体は国であり、こうした医療現場における課題については、引き続き国が責任を持って対応していくべきものと認識しております。

本広域連合といたしましては、被保険者の制度理解や利用促進を図ることで、医療機関における対応の円滑化にも資するものと考えておりますことから、引き続き丁寧な周知に努めてまいります。

○議長(二宮 博君) 16番、日隈議員。

○16番(日隈 知重君) マイナ保険証の具体的なトラブル事例のうち、65.1%と最も割合が高いのが、住所や名前などを表記する際に黒丸が出るというもの。全国保険医団体連合会の資料によりますと、住所などのデータに使用される文字コードと、医療保険者向け中間サーバーの対応している文字コードの違いから生じる文字化けが原因だといわれております。中には、元となるデータが入力された時期が古く、かな入力や機種依存文字の使用が黒丸の出現を引き起こしているケースもあるということです。つまり、マイナ保険証システムの大きな改善を国が行わない限り、トラブルは減らないということではないでしょうか。現時点で、マイナ保険証を使うことのメリットを広報することはできないと思いますけれども、これについて見解をお伺いします。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 先ほども申し上げたとおり、制度の運営主体は国であり、ご指摘の技術的な課題については、引き続き国において責任を持って改善を図っていくべきものと認識しております。

一方で、現在、マイナ保険証を利用した場合でご指摘の不具合が出たとしても、対処方法につきましては、国から示されており、医療機関等において受付が出来ないという状況にはなく、受診そのものに大きな影響を及ぼしている状況ではないと考えております。

そのため、本広域連合といたしましては、こうした課題を踏まえつつ、マイナ保険証を利用することで、限度額適用認定の手続きが不要になること、また薬剤や特定健診の情報の確認ができることなど、被保険者にとって、さまざまなメリットがございますことから、今後もそのメリットについて、正確かつ丁寧な周知、広報に努めてまいりたいと考えております。

○議長（二宮 博君） 16番、日隈議員。

○16番（日隈 知重君） 今年5月1日付の日本経済新聞は、マイナ保険証の利用率、3月27.26%、伸びは鈍化と報道しています。

厚生労働省は5月1日マイナンバーカードに健康保険証の機能を乗せたマイナ保険証の3月の利用率が27.26%だったと明らかにしています。2月から0.6ポイントほどの上昇です。

記事では、従来の健康保険証の新規発行を停止した2024年12月以降の伸びは鈍化していると指摘をしています。今後も周知、広報に努めてまいりたいと述べておりますけれども、マイナ保険証の利用率はあまり上がらないのではないのでしょうか。今年度のマイナ保険証の利用率の目標はどうなっていくか伺います。

○議長（二宮 博君） 日隈議員。議事進行上、同一議題についての質問は3回までとなっておりますので、ご了承を願います。

○議長（二宮 博君） 16番、日隈議員。

○16番（日隈 知重君） 今年度中にマイナンバーカードの更新が必要となる人数と割合を伺います。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） マイナンバーカードの更新の手続きについては、各市町村の担当事務であることから、本年度中に更新が必要となる人数については、本広域連合では把握しておりません。

○議長（二宮 博君） 16番、日隈議員。

○16番（日隈 知重君） マイナンバーカードの期限切れにより、マイナ保険証が利用できないことが起こらないようにするための対策を伺います。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 令和6年12月2日以降、従来の健康保険証は新規発行を終了し、マイナ保険証を基本とする仕組みに移行したところでございます。

一方で、後期高齢者の皆さまにおかれましては、医療機関等に設置されたカードリーダーの操作が分かりにくいといった状況もあり、マイナ保険証の利用が十分に進んでいない面もございます。

こうした状況を踏まえ、国の通知により、全ての後期高齢者医療制度の被保険者に対し、令和8年7月末まで有効な資格確認書を交付したところでございます。

この資格確認書をお持ちいただければ、たとえマイナ保険証の有効期限が切れていた場合でも、

医療機関等で引き続き安心して受診していただくことが可能となっております。

また、マイナンバーカードの有効期限が切れた場合であっても、保険証としては、失効後3か月間は猶予期間として利用可能とされており、その間にカードの更新手続きを行っていただくようお願いするとともに、有効期限が切れる前に手続きを行うよう、全被保険者へ送付する制度説明用のしおりやホームページにて、周知を行っているところでございます。

今後も、国の制度改正の動向を注視しながら、市町村とも連携し、被保険者の皆さまに必要な情報を分かりやすくお伝えできるよう、努力してまいります。

○議長（二宮 博君） 16番、日隈議員。

○16番（日隈 知重君） 以上で質問を終わります。

○議長（二宮 博君） 次に、まいります。

22番、岩崎議員。

○22番（岩崎 貴博君） まず一問目、初めに住民への説明責任についてお尋ねいたします。

後期高齢者医療制度の下では、毎年保険料が見直されております。令和7年度の一人当たりの年間保険料は81,096円、前年度よりも4,700円、月にして390円の増加となっております。この金額を見て、わずかと感じる方もおられるかもしれません。ですが、月6、7万の年金で暮らす高齢者にとって、月400円の増加は、食費や通院費を削るという選択に直結する深刻な問題です。

実際に、病院に行く回数減らした、薬をまとめて止めたといった声も届いております。それだけになぜ保険料が上がるのか、どのような仕組みで決まるのかといった説明が分かりやすく丁寧に行われることが非常に重要だと考えます。

しかし、現状はただ納付通知書が届くだけ、理由が書いてあっても難しく分からない、突然引き落としされて驚いたという声が寄せられています。なぜ保険料が上がるのか、その背景には国庫負担割合の小ささは前提としてありつつ、高齢化の進行による医療費の増加、現役世代の人口減による支援金の縮小など複雑で多層的な要因があります。

さらに、保険料は均等割と所得割の合計で構成され、広域連合が2年ごとに地域の医療費や財政状況を踏まえて設定する仕組みです。このような制度の仕組み自体が複雑であるため、一般の皆さん、住民の皆さんにはどこで誰が決めているのか、自分の保険料がなぜこの額なのかが伝わりにくくなっています。

だからこそ、私たち広域連合と各市町村が連携し、単に上がりましたと通知するだけではなく、なぜ上がったのか、今後どうなるのか、どうすれば相談できるのか、そういったことは誰にでも理解できる形で発信していく必要があるのではないのでしょうか。制度の持続可能性を支えるのは住民の皆さんの理解と納得です。分かりやすく伝える、声を聞き取る、共に考える。その姿勢なくして制度の信頼は成り立ちません。

そこでお尋ねいたします。

制度の変更や保険料の見直しにあたって広域連合として住民への説明責任をどのように果たしているのか、その方法、内容、対象の範囲について具体的にお示しください。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 岩崎議員からの住民への説明責任についてのご質問にお答えいたします。

保険料の見直しや制度の変更につきましては、被保険者の皆様に対して、本広域連合としても、説明責任を果たすことが重要であると認識しております。

そのため、保険料率の改定を行う際や制度に変更がある場合には、被保険者の皆様へ送付する通知文や同封のしおりなどにおいて、改定の理由や保険料への影響等について、出来る限り丁寧に記載し、周知を図るよう努めております。

また、本広域連合のホームページにおいても、制度改正の概要や保険料に関する情報、各種手続きに関する内容等を掲載しており、広く情報提供を行っているところでございます。

さらに、各市町村が発行する広報誌を通じて、制度や保険料に関するお知らせを行っております。

このように、被保険者の皆様が制度の内容や変更点について、理解しやすいよう、様々な媒体を活用して、丁寧な周知に努めているところでございます。

今後とも引き続き、よりわかりやすい情報提供を行ってまいります。

○議長（二宮 博君） 22番、岩崎議員。

○22番（岩崎 貴博君） 制度変更や保険料改定の際に、通知文やホームページ、広報紙等の通知で情報提供に努めておられておるということは理解しましたし、一定の周知も工夫されていることは評価いたします。

しかし一方で、先ほど申し上げた通り、なぜ保険料が上がったのかわからない、難しい言葉ばかりで理解できないという声が届いております。その多くが年金収入のみで暮らす高齢者、医療や介護を日常的に必要とする方々の切実な声です。

制度運営に当たっては、制度の仕組みを伝えるだけでなく、制度が人の暮らしにどのような影響を与えているのか、その痛みにも心を寄せていただきたいと強く願います。通知文に図や表を増やすこと、動画や対話形式の解説を導入すること、また、家族やケアマネジャーにも届くよう情報発信のあり方など、より一層分かりやすさと共感を重視した情報提供の改善をお願いしたいと思えます。

合わせて、制度の理解を深めてもらうための場づくり、例えば出前講座、地域の説明会、あるいは市町村議会と連携した意見交換など、住民とともに制度を育てていく視点も大切にしていく必要があるのではないのでしょうか。保険料の数値は伝えるだけでなく、伝わることが重要です。そのため制度の説明が生活に寄り添い、心に届くものとなるよう丁寧な運営を、改めて要望させていただきたいと思えます。

次の質問、二点目の質問に移ります。議会構成市町村との合意形成についてです。制度の限界や改善の方向性を構成市町村や議会とどのように共有し、合意形成を図っているのかについてお尋ねします。ご承知の通り、後期高齢者医療制度は国の制度設計に基づいて、県単位の広域連合が運営主体となっています。

一方で、現場では様々な問題が起きています。軽減措置の対象から外れてしまう高齢者、年金収入だけでは到底負担しきれない保険料、受診を控えざるを得ない実態、制度の持つ限界が各地で露呈しているのではないのでしょうか。こうした制度の運営には、本来現場の実情をつかむ視点、そして、構成市町村や議会との丁寧な対話と合意形成が不可欠であるはずで。

しかし、実際には現場から以下のような課題が聞こえてきます。

まず、市町村職員からは制度があまりに複雑で、高齢者からの問い合わせに答えるのが困難、保険料の決定の根拠や上昇の理由を個別に分かりやすく説明するのが難しい、制度改正が煩雑で市町村に届く通知だけでは対応が追いつかない、住民の怒りをぶつけられ、精神的負担が大きいといった誠実な声が上がっています。

また、私たち市町村議員からは住民の不満や疑問、直接聞くが自分の制度を十分に理解しておら

ず、対応に苦慮する。広域連合の議論に直接関わらず、地域の声が届きにくい、保険料の仕組みや財政構造が不透明で住民にも説明しきれないといった指摘があります。私はこうした現場の声を制度運営にしっかりと反映させていく必要があると考えます。制度の見直しは国の所管とはいえ、運営の現場は市町村であり、議会であり、何より高齢者とその家族です。

この制度を少しでも暮らしに寄り添ったものにするには、制度の限界や課題をしっかりと共有し、合意形成を積み重ねていく姿勢が欠かせません。

そこでお尋ねいたします。

制度の持続性や今後の課題について、広域連合として、構成市町村や議会とどのように情報を共有し、合意形成を図っていくのか、またその現状について改善の余地があるとすれば、どこにあるとお考えか合わせてお答えください。

○議長（二宮 博君） 姫野次長。

○次長兼総務課長（姫野 邦夫君） まず、構成市町村との情報共有や合意形成についてでございますが、本広域連合は、構成市町村の事務担当者からなる給付部会、賦課・資格管理部会、保健事業部会、徴収担当者会議などの部会、市町村後期高齢者医療主管課長等からなる幹事会、構成市町村の長などからなる運営協議会を開催し、実施事業についての報告や制度の変更点など、協議を行うとともに、助言をいただきながら、常に情報を共有し、合意形成をはかる中で、業務を進めているところでございます。

次に、議会につきましては、広域連合の議員になられた際に、後期高齢者医療制度や本広域連合の概要を、ご説明させていただき、また、全員協議会の場を通じて実施事業の報告や制度の変更点をお知らせするとともに、定例会等で質疑・質問にお答えする中で、情報共有や合意形成を図ってきたところでございます。

また、国からの突然の制度変更につきましても、構成市町村に対して、直ちに情報提供を行うとともに、議員の皆様にも文書で通知をさせていただいたところでございます。

なお、改善点につきましては、令和6年第2回議会運営委員会におきまして、後期高齢者医療保険の制度内容について研修会を開いていただきたいとのご意見をいただきましたことから、新たな取組として、7月24日の全員協議会の終了後に、後期高齢者医療制度の概要、賦課・資格、給付事業及び保健事業等の内容に関する研修会を開催し、議員の皆様には後期高齢者医療についてのご理解を深めていただいたところでございます。

今後も、丁寧な説明に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（二宮 博君） 22番、岩崎議員。

○22番（岩崎 貴博君） 構成市町村や議会との情報共有として、様々な会議、機会を通じて情報提供を行っているということは理解いたしました。しかし、実際には私は先ほど申し上げたような制度が複雑で説明しきれない、住民からの窓口で答えるために、もう少し資料が欲しいといった声が上がっております。各市町村の議会や窓口担当等の高齢者から上がっております。特に、制度改定や保健医療見直しなど重要変更があった際には、広域連合でどんな議論がされていたのか、なぜこうなったのかという疑問に十分答えきれないという課題があります。

制度への理解を少しでも広げ、住民への丁寧な説明につなげるためにも、例えば、希望する関係者に対して、連合議会で使用した紙ベースでの資料や説明文書などを共有する仕組みが検討できないでしょうか。あくまで義務化ではなく、希望に応じた柔軟な情報提供の形があれば、制度の透明

性や信頼性向上にもつながるのではないかと考えます。そのような情報共有のあり方について、再質問として広域連合としてのご所見を伺いたいと思います。

○議長（二宮 博君） 姫野次長。

○次長兼総務課長（姫野 邦夫君） 議案書等につきましては、後期高齢者医療広域連合議会の議員の皆様には全員協議会にてお渡しをしており、構成市町村の議会事務局へ全員協議会終了後、直ちに発送行うとともに、広域連合のホームページに掲載を行い、さらには広域連合議会議員を通じて構成市町村議会の議員さんや県民の皆様にも情報共有が図られているものと考えております。

以上でございます。

○議長（二宮 博君） 22番、岩崎議員。

○22番（岩崎 貴博君） 今後の課題として、認識を一致させていただきたいと、今後もそういった要望を続けていきたいと思っております。要望ですが、確かに議案書はですね、議案はホームページで見ることができるということになっておりますが、速報性を高めるためにもですね、全員協議会が終わり次第ですね、可能な限り早期にアップしていただくことを要望として、次の質問に移りたいと思っております。

第3問目は、生活実態への対応と減免制度の通知についてお伺いをいたします。保険料の上昇が高齢者の生活に与える影響とそれへの対応についてお尋ねします。令和6年度の資料を見ますと、滞納繰越額は約6.6億円。そのうち回収されたのは約半分の3.2億円にとどまっています。これは単なる数字ではありません。払いたくても払えない現実がそこには現れております。私のところには急に保険料が高くなった理由が分からない、医療費が払えず病院行くのをやめた、減免制度のこと知らなかったという声が寄せられています。

制度として減免措置があることは承知していますが、申請しなければ適用されず、情報が十分に届いていない現状があります。医療制度は高齢者の健康と命を守るためのものです。その制度が、かえって生活を苦しめ、受診を妨げるようなことがあってはならないと私は思います。

だからこそ、生活に支障が出ている実態を的確に把握し、制度の運用を改善していくことが必要です。そこでお尋ねいたします。保険料の上昇による高齢者の生活への影響について、広域連合としてどのように把握し、どう対応しているのか、減免制度の周知、相談体制の改善の必要性について、どのようにお考えなのかを含めて、ご見解をお聞かせください。

○議長（二宮 博君） 岩崎事業課長。

○事業課長（岩崎 正信君） 保険料の上昇が、高齢者の生活に与える影響について、保険料が払えない、通院を控えるといった声があることは、本広域連合としても重く受け止めております。

こうした影響の把握につきましては、各市町村との賦課資格管理部会を通じて、各市町村における相談内容や徴収の現状などを情報共有しており、その中で生活への影響や対応への必要性についても認識しているところでございます。

生活に困難を抱えている方への対応としましては、法令に基づく保険料軽減制度に加え、災害や失業等の特別な事情に応じた減免制度を設けており、各市町村において、個別の相談に応じたきめ細かな対応をさせていただいております。

ご指摘の減免制度の周知につきましては、広域連合のホームページや市町村窓口を通じてお知らせしているほか、市町村広報誌への掲載等で情報提供も行っております。

今後も引き続き、こうした取り組みを丁寧に進めていくとともに、被保険者の皆様にとってより分かりやすく、必要な支援が届きやすくなるよう、周知や相談体制の更なる充実に努めてまいります。

す。

○議長（二宮 博君） 22番、岩崎議員。

○22番（岩崎 貴博君） ご答弁では、保険料の負担に対する影響を重く受け止めていること、また、市町村との情報共有や周知に取り組んでいるそういったご答弁がありました。

一定の取り組みは理解いたしました、やはり現場での声とのギャップがあると、私は感じます。制度はあるが届いていない、情報は出しているが見てもらえていない、そのような状況が、今の高齢者の下で起きています。保険料が上がる中で生活は厳しさを増し、制度が本来守るべき人々をかえって追い詰めてしまっている実態に、もっと正面から向き合う必要があります。

そのため、以下3点について改善を要望いたします。

第1に、生活実態のより正確な把握と分析の強化です。現在の賦課資格管理部会を通じた情報共有だけでは実態把握は不十分です。ぜひ定期的なアンケート調査を実施し、高齢者の声や生活への影響、減免制度の認知度を掘り下げて把握していただきたい。

また、市町村の窓口職員や地域包括支援センター、民生委員など日々高齢者と接している方々からヒアリングを行い、形成的な情報も丁寧に集めていただきたいと思います。さらに、滞納や相談件数の背景要因を分析し、どのような層に負担が集中しているのか、地域差があるのかなど構造的な傾向を明らかにする取り組みを進めていただくようお願いします。

第2に、減免制度の周知と支援申請支援の抜本的強化です。広報紙で周知しているだけでは、必要な人に情報が届いてない現実があります。減免制度の対象となりうる方々に、個別にダイレクトメールを送付する仕組みや、申請方法や必要書類をまとめた分かりやすいチラシの活用など工夫が求められます。また、高齢者にも理解しやすい、優しい言葉、大きな文字、イラストを用いた周知資料の作成も検討していただきたいと思います。

加えて、自治会や老人会などと連携し、地域での説明会や出張相談会を行う、そういったアウトリーチ型の支援も必要です。窓口や包括支援センターに、減免申請を支援する専門職員を配置する、あるいは、申請を簡素化するなど、実際に制度を使える状態に作る努力を求めたいと思います。

第3に、広域連合としての透明性と責任の明確化です。重く受け止めているという言葉がありました、言葉だけでは住民には伝わりません。保険料に関する相談件数、減免申請数、未納滞納状況などを市町村別に集計し、年に一度、住民相談対応白書、これは仮称ですが、そういったものを作り公表していただければと思います。合わせて、広域連合議会でこうした課題を議論し、その内容を住民にも分かりやすく発信する努力も求めていきたいです。

高齢者の命と健康を守る制度が、生活を脅かす制度になってはならない、そういった思いで今回提案をさせていただきました。制度が本当に機能するためには、住民の声に耳を傾け、現実に即した丁寧な運用と改善が必要です。今後の取り組みに、心から期待を寄せまして、私の発言、質問とさせていただきます。

以上です。

○議長（二宮 博君） 以上で、一般質問を終了いたします。

日程第8 会議録署名議員の指名について

○議長（二宮 博君） 次にまいります。

日程第8、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第79条の規定により、議長において、11番佐藤市蔵議員、16番日隈

知重議員のご兩名を指名いたします。

お諮りいたします。本定例会において、議決されました各案件について、その条項、字句その他整理を要するものについては、会議規則第41条の規定により、その整理を議長に委任願いたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。よって、そのように決定されました。

閉 会

○議長（二宮 博君） 以上で、本定例会に付議された案件は全て議了いたしました。

お諮りいたします。本定例会は、これをもって閉会いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○議長（二宮 博君） ご異議なしと認めます。

よって、令和7年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会は、これをもって閉会いたします。お疲れ様でした。

午後2時33分閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する

令和7年8月4日

大分県後期高齢者医療広域連合議会

議 長 二 宮 博

署名議員 佐 藤 市 蔵

署名議員 日 隈 知 重